みたかみんなの広場

新しい公共モデル事業

みたか・みんなの広場

～点から線、線から面へ紡ぐ市民活動の拠点と
多世代市民の集いの場づくり～

活動報告

平成２５年３月

みたか・みんなの広場運営協議会

1.序

昨年（平成 24 年）、新しい公共モデル事業の認定を受けてから、早くも1年が経過した。これまで経験のない事業を、それまで交流のない団体が、助成金事業という考え方もわからないまま始めたということである。

事業期間がほぼ1年であり、ほとんど試行期間という感じではあるが、この事業をやったことによる各団体の経験は、今後活動を進めるに当たって、まさに「宝」と言えるものであった。

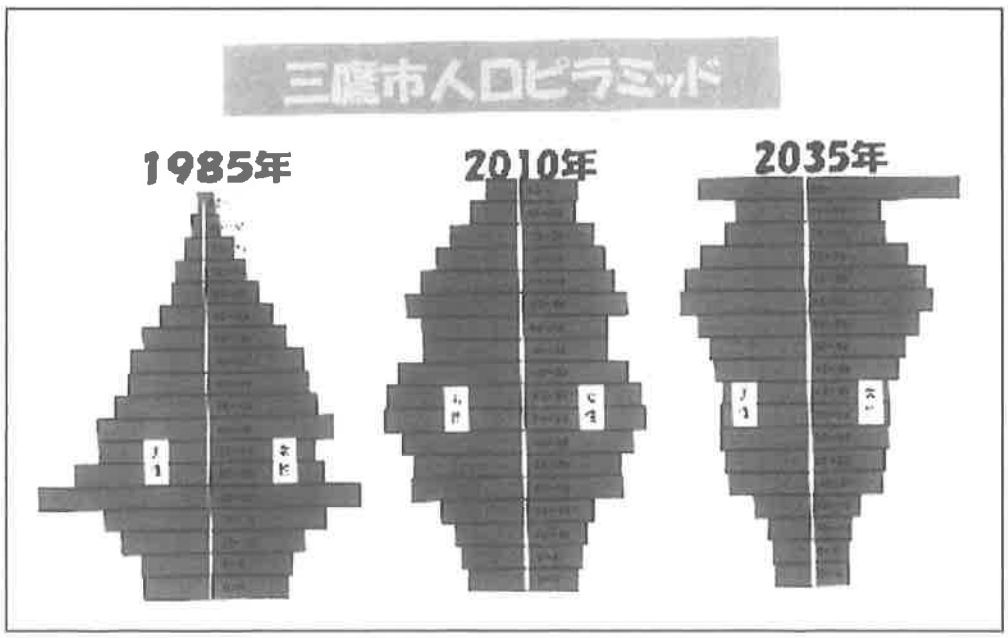
4月から、この活動も新しい次元に移行することになるが、この一年の蓄積をもとに、さらなる展開を期するものとしていきたいと考えている。

2. 地域の課題

申請書では下記のように記載した。

①急速な少子高齢化による高齢者の単身世帯の増加や核家族化に伴う、さまざまな生活支援等の多様できめ細かな対応の要請
②町会・自治会等地域自治組織の活動停滞
③地域の多様な課題を、新たな共助や協働によって解決していく「コミュニティ創生」の取り組みの要請
④多様な主体が協働・連携し、地域のつながりや支え合いを深めるためのネットワークの強化の要請

現段階でも、この基本的な枠組みに変化はなく、この一年の取り組みの結果、今後さらにこの傾向が強まることは必然であると認識している。
ちなみに、三鷹市の人口ピラミッドの予測を見てみると、このことがはっきわかってくる（「下図」参照）。



三鷹市としても最重要課題として「コミュニティ創生」ということを掲げ、「コミュニティ創生研究会」という市としての研究会を開催しているが、行政としての対応は今後の検討という段階である。

市の関係する部長と面談した際、「みたか・みんなの広場の活動はコミュニティ創生を先取りするものだ。」という評価をいただいてはいるが、それは市としとの取組が今後のことであることを表している。

市内のNPO等の各団体も同様の問題意識を抱えてはいる。各団体はそれぞれ当面の問題を抱えており、新たな活動へ踏み出す余力はないのが実情である。

今後の「地域の課題」の解決については、非常に困難であるとの認識はこの一年でさらに大きくはなったが、一方、解決のためには市民が協力するしかないという気持ちも増幅されることとなった。

市民団体と市職員との意見交換会

3. モデル事業の内容

申請書の内容を転載する。

①地域の居場所かつ気軽に立ち寄れる相談窓口としてのコミュニティ・カフェの運営
②定期的なサロンの開催（認知症に関わる種々の相談、メンタルサポート、介護予防講座や子育て講座等々さまざまな講座の開催、行政情報の提供など）
③便利屋ネットによる生活の質を高めるための支援
④便利屋ネットや宅配を活用した「御用聞き」事業による高齢者の見守り活動
⑤町会・自治会等の支援活動

これらの活動は、構成団体の日常的な活動を集約しながらまとめたもので、今回の助成金のために検討されたものではない。短い助成期間のあいだにまったく新しく、上記にかかわる事業を立ち上げることは不可能であると考えていたので、構成団体のこのような活動経験があったことは、みたか・みんなの広場の活動に大いに役にたつこととなった。

4. マルチステークスホルダーの概要

当運営協議会の構成団体は以下の通りである。

①NPO法人 HumanLoop・人の輪

高齢者のグループリビング（共同生活）を実現することを目的とするNPO。
当協議会の代表団体であり、理事長は当協議会の事務局長として、活動全般に目を配っている。

②NPO法人日本シニアジョブクラブ

退職者の就業をするために、みずから仕事を開拓することを目的としたNPO。
代表の成清は、本協議会の代表を務めている。

③三鷹科学あそびの会

簡単で興味を引く実験を通じて、子供の科学的意欲を喚起することを目的としている。子供だけでなく、親もいっしょに楽しめるので、みたか・みんなの広場のサロン開催のみならず、各学校からも招聘されている。

④NPO法人子育てコンビニ

子育て世代を中心に、孤独な育児からの解放を目指して活動している。活動期間はすでに10年目になり、市の委託事業をはじめ、市内の各団体からの仕事依頼を受けている。みたか・みんなの広場でも、チラシの作成等女性らしい取組で活動している。

構成団体

⑤介護予防教室　チームさくら

「介護予防」という観点で高齢者の支援をしている。市内の病院と提携して活動したり、高齢者のところへ出向いたりして活動をしている。

⑥チームみんなのブックカフェ

町会という切り口で市民と協働したコミュニティの活性化を目的とする活動をしている。市の協力のもとでの各町会との関係づくりから支援活動まで、幅広く活動している。

⑦NPO法人グレースケア機構

介護保険対象者への介護事業に加えて、市民の要請による介護保険適用外の介護にも応える広範な活動をしている。代表は当協議会の副代表。

⑧みたか認知症家族支援の会

代表はもと医大教授である。三鷹でも少なくない認知症の患者の家族支援の活動とともに、認知症への取り組みの重要性の広報活動に務めている。

⑨三鷹市医療と福祉をすすめる会

30年を超える長期にわたり、医療関係との連携を通じて、市民への支援活動をしている。
代表は当協議会の副代表。

⑩三鷹市環境部コミュニティ文化課

市の重点政策である、"コミュニティ創生"を担当している。当協議会の窓口であり、関係各部との調整をお願いしている。

みたか・みんなの広場旗

5. 実施事業の詳細な内容

(1)モデル事業の申請まで

①伏線

みたか・みんなの広場事業のシーズは、平成23年の三鷹市でのイベントにある。三鷹市の事業で「がんばる地域応援プロジェクト」というイベントがある。目的は町会とNPO等の結びつきを狙ったものである。

主催は三鷹市、企画運営は、「三鷹市市民協働センター」の指定管理者であるNPO法人みたか市民協働ネットワークが 行っている。センターは、NPO 中間支援事業を中心に、市民活動全般の支援を行っている。がんばる地域応援プロジェクトには、市内のNPO等の各団体が協力しており、当協議会のメンバーも参加している。

平成23年の同プロジェクトで、現在当協議会の事務局長を務めている NPO 法人ヒーマンループ"人の輪"の竹内代表がこういう挨拶をした。

「NPO 単体ではその活動には限界がある。三鷹には NPO がたくさんあるのだから、NPO が協力して市民のサポートをすることで、安心安全な市民生活が送れるようなシステムをつくりたい。」

みたか・みんなの広場はまさにこのメッセージの結果である。

がんばる地域プロジェクトの様子

みたか・みんなの広場紹介

(3)拠点探し～契約

申請書を提出したものの、その申請が受理されるかどうかはわからない。しかし、今回の事業の必須条件は拠点としての場所を探すことである。

拠点探しは、申請書提出前の8月から着手した。市内の不動産業者のいくつかに条件を提示して、物件探しを依頼した。条件としては、

①家賃10万円まで
②敷金・礼金なし
③厨房設備がある程度整備されていること

この後、下連雀を中心に10件ほどの物件をみたが、どれもこの条件を満たすものではなかった、と言うより、三鷹市内には10万円の家賃では、その程度のものしかなかった、ということであろう。
一件、まずほかには借り手は見つからないだろうと思った物件について、リフォームの見積もりを取ったうえで、家主に条件を提示したところ、もっと好い条件の可能性があると思っただのだろう、家主は拒否をしてきた。その後1年経過したが、当該物件は空家のままである。その物件の前を通るたびに、あの時 OK してくれれば、こちらの25年度からの活動にも都合がよかったのにと、ちょっとばかり残念さを感じる。

12月に入って、上記条件では難しいと判断して、家賃を15万円までとした。それでも物件が多くあるわけではない。

2月に入って、メンバーの一人から「貸してもいいと言ってるよ」という連絡があった。歩いている時に偶然見つけたということだ。すぐに大家と会って条件等の交渉を行い、契約にこぎつけたのは、2月19日であった。

みたか・みんなの広場外観

これはあとで聞いたことであるが、都としては2月中に物件がみつからなければ、返上の勧告をするつもりであったそうな。
まったく、そう言われても仕方がない状況であった。半年間探して、最後の最後でようやく契約にこぎ着けられたことは、本当に運がいいと言わざるを得ないし、私たちにとっては、まさに奇跡であると言える。

(4) 準備～オープニング

物件の契約が決まって着手したことは、

①拠点のリフォームの手配

②必要な物品の購入

である。

①拠点のリフォーム手配について

拠点は、築年が古くしばらく利用されていなかったことから、老朽化が顕著であり、また2階への階段に手すりの設置やいくつかの手直しも必要であった。申請段階で基本的な見積もりは済ませていたが、再度補修箇所を確認して、リフォームの依頼をした。3月のできるだけ早い段階で使用を開始したかったので、2月下旬から工事を開始し、3月初めには終わるように手配をした。業者が協力的であったことから、工事は順調にすすみ、予定どおりに終了することができた。

今回契約した拠点は数年使われていなかった。
そこでまずメンバー全員参加による大掃除から始めざるをえなかった。
掃除となると掃除用品の準備、洗剤の使いかた、やはり女性が活躍する。男性はと言うと、女性の指示を受けて、右往左往の状態。
この状況がまさに、「市民活動」。

全員で大掃除

しかし、この活動は、今回はじめて出会ったメンバー同士の結びつきを強めることにおおいに効果があった。まったく、人間の活動には無駄がないものである。

②必要な物品の購入について

問題はこれである。まず、一年目の助成金の期限は3月末である。申請時には、具体的な日程はわかっていなかったので、アバウトなスケジュールでしかなかったが、実行段階では、そうはいかない。特に、年度末にカフェの準備をするためにこまごまとしたものを購入する必要があったことは、難題であった。

物品の購入について、文房具、備品、厨房関係等の担当を決め、各担当に購入予定リストと予算を提示して購入をお願いした。購入時の個別問題は、代表に一本化し、無駄がでないようにした。

厨房関係などは男性には難しいが、運搬の必要もあるので、できるだけ男女で一緒に行くとか、IT関係はその分野に詳しい方にお願いする等の配慮をした。

その結果、助成金振込の2月29日以降3月末までに、なんとか必要な物品の購入をする

ことができた。一部の備品等は間に合わすことができなかったが、それは24年度の予算で対応することとした。

拠点の確保からカフェやサロンをたった一か月で実現できたことは、まさにみたか・みんなの広場のメンバーの協力関係によるものである。感謝の一語に尽きる。

③講習会

カフェをオープンするためには、メニューを揃えなければならない、メニューを準備するためには、それなりの準備が必要である。コーヒー一杯でも淹れる人間によって味は変わるので、味の均一化を図る必要がある。

この問題を解決するために、3月中に飲み物の研修会を開催した。紅茶、日本茶、ハーブティ等について、三鷹在住の専門家に来ていただいた。やはり、素人と専門家は違い、ちょっとした工夫で味は大きく違うものである。ただ、約一年経過した今でも、入れるメンバーによって味が違うという問題は解決できていないし、今後も解決はなかなか難しいとも思っている。

各講師の方とは、この講習会のご縁で、仕入や新メニューの開発についても、現在までご指導をいただくことができている。

④オープニング

リフォーム、掃除、買い物、飲み物講習会等、一か月の準備を経て、いよいよオープンの日を迎えることになる。オープンにあたっては、やはりお世話になった方々をお呼びして、感謝の気持ちをお伝えしなければならない。

オープニングでの記念写真-市長とともに

そこで、市長をはじめとする行政関係者、アドバイスをいただいた都議会議員の方、市議会議員の方、それに大家さんたちに声をかけてさせていただいて、オープニングセレモニーを開催した。

新拠点の2階は、二間続きであるとは言え、そう広くはないが、総勢20名余の方に集まっていただくことができ、講習会で得た紅茶の技術を活用し、みなさまに嗜んでいただくこともできた。

オープニング告知チラシ

⑤みんなの広場設立記念講演会

みたか・みんなの広場の事業開始にあたって、講演会を開催して市民へのアピールをしたいということは準備会の段階から計画していたことである。

副代表であるグレースケアの代表Yさんから「上野さんはどう？」という話が出たのは、申請を出す準備が進んでいたころであったと思う。

メンバーとしては、「あのような方が来てくれるのか？」というのが最初の印象であったが、グレースケアの事務所においでになる、ということを聞き、「そういう面もお持ちなんだ。」ということで、Yさんに段取りをお願いすることにした。

講師としてお願いする糸口として、実際の活動現場を見ていただくのが一番よいと考え、みたか・みんなの広場の構成員HumanLoop”人の輪”が運営する、高齢者が「いっしょにご飯を食べながら交流する」の拠点である「あずましの輪」にお出でいただいて、食事会をすることとした。

食事会では、各団体の自己紹介をしながら、「ところで、講演をお願いできませんか。」と切り出した。

上野氏としては想定内のことであったとは思うが、笑いながら「そんなことは聞いてないわ。お昼を食べるだけだと思っていたのに。」

それでも、「皆さん方がどんな活動をおやりになっているのか、ヒアリングをさせて。」ということになった。ヒアリングでは、食事会では説明の少なかった構成団体の活動についていろいろ質問をされた。

講演会当日の上野千鶴子氏

この2回の会合で、「絆」というのは、しがらみという非常に強くつながった関係ですが、あなたたちはそんな繋がりを望んでいるのですか？田舎の強い関係である絆をきらって東京へ出てきたのではありませんか？とか、あるいは、住民と市民の違いはなんですか？と聞かれ、当惑したりした。そういう議論を積み重ねた結果が「市民がつくる新しい縁（えにし）」という講演会のテーマである。

いま思えば、上野氏のきびしい指摘事項のおかげで、みたか・みんなの広場のあり方にも大きな影響があったような気がする。
また、講演会のテーマ「市民がつくる新しい縁（えにし）」とみたか・みんなの広場の事業名「点から線、線から面へ紡ぐ市民活動の拠点と多世代市民の集いの場づくり」は相互に関係性があり、良い表現だと感じている。

講演会には、定員100名のところに120名もの方にお出でいただくことができ、質問も多く出て、講演会としては成功であったと思う。ただ、講演会後に参加された方から、みたか・みんなの広場への新しい参加希望者は一人でも出てくることはなく、期待半分ではあったが、叶うことがことがなかったのは残念であった。ある人の言ったことでは、「三鷹では講演会にはたくさん集まる。しかし、いっしょには行動してはくれない。」
市民活動とはそういうものと思ってあきらめるべきかどうか、悩むところである。また、上野氏は「活動するひとはおせっかい屋」と言われた。また、「邪魔をする参加者は去れ。」とも。まったく鋭い指摘である。

講演会の様子

上野千鶴子氏

（スペシャル・ゲスト：1948年7月12日～）

代表を、NPO法人ウィメンズアクション・ネットワーク（WAN）理事。

東京大学名誉教授、専門は社会学、ジェンダー研究。

日本学術会議会員。

「おひとりさまの老後」「男おひとりさまの流儀」「ケアの社会学」

など著作多数。

みたか・みんなの広場 設立記念講演会

市民がつくる新しい縁（えにし）

２０１２年３月３１日(土)　午後１時～３時

三鷹市市民協働センター第１会議室

入場無料（事前申込み先着１２０名様）

開場 12時30分

申込み先

メール：knarikiyo@gmail.com

ＦＡＸ：0422-47-7919

三鷹市下連雀４－１７－２３

みたかみんなの広場…地域のみなさまとNPO等の市民活動団体が一緒に活動できる「助け合いの場」をつくる団体です

主催：「みたか・みんなの広場」準備委員会

上野千鶴子氏講演会チラシ

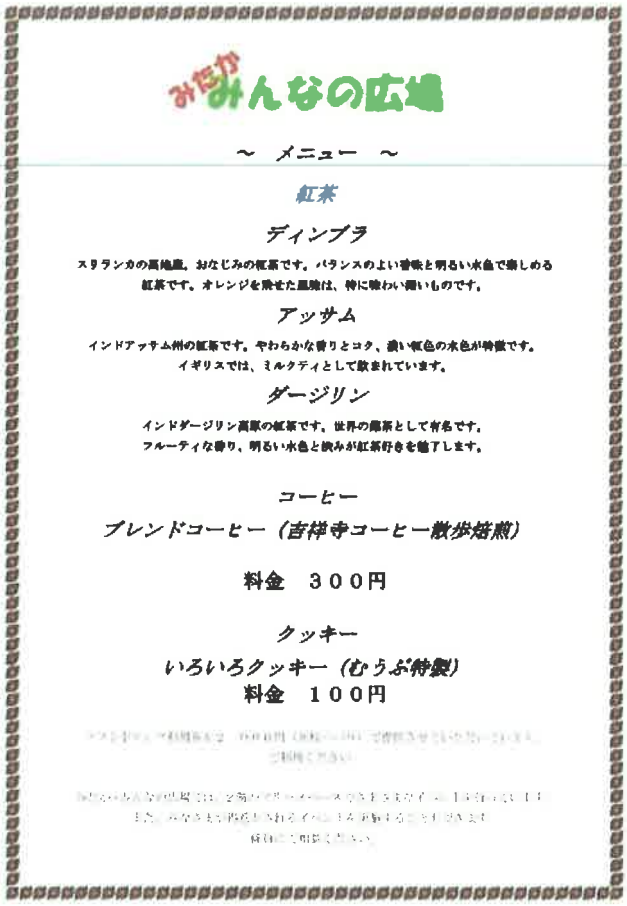
(5)カフェ事業

今回の本来の事業のひとつである。

①目的

カフェ事業は、みたか・みんなの広場の事業名にある「多世代市民の集いの場づくり」という第一の目的である。

いま、全国でコミュニティカフェの取り組みが展開されているが、この現象の原因はどこにあるのだろうか、と考えてみた。


みたかみんなの広場

～ メニュー ～

紅茶

ディンブラ

スリランカの高地産。おなじみの紅茶です。バランスのよい香味と明るい水色で楽しめる紅茶です。オレンジを飾せた風味は、特に味わい深いものです。

アッサム

インドアッサム州の紅茶です。やわらかな香りとコク、濃い紅色の水色が特徴です。イギリスでは、ミルクティとして飲まれています。

ダージリン

インドダージリン高原の紅茶です。世界の銘茶として有名です。フルーティな香り、明るい水色と渋みが紅茶好きを魅了します。

コーヒー

ブレンドコーヒー（吉祥寺コーヒー散歩焙煎）

料金　３００円

クッキー

いろいろクッキー（むうぶ特製）

料金　１００円

当初のメニュー

Wikipediaに「家族」という項目があり、「戦後の家族」ということで以下のように記載されている。

「1950 年代以降（高度経済成長期）の家族変動の最も顕著なものは同居親族数が減少したこと、および共同体の力の減退に伴って家族の基盤に変容が生じたこと、の二つの特徴があげられる。多数の人口が農村から都市へ移動し、兄弟の数も減った。

戦後社会で育った子供たちはすでに中年から高齢にさしかかり、不況の中で社会から孤立する者が急速に増え無縁社会という言葉まで生まれた。

1980 年代以降は、夫婦の共働きも一般化しつつある。それによって育児や子育てが保育園や学童クラブ、地域の野球やサッカー、スイミングスクールなどのスポーツクラブ、学習塾などに一時的に委託されることも増え、性別役割分業の見直しが進みつつある。また、高齢化社会に伴う老親の扶養の問題も深刻化してきた。」

このことを受けて、「絆」とか「縁」とかいう言葉が多く使われるようになり、その一環としてのコミュニティカフェ、ということであると思う。

コミュニティビジネスとしての取り組みもあるが、コミュニティカフェとビジネスの両立には、やや疑問を感じざるをえない。やはり、ビジネスは利益を追求するものであって、「福祉」の活動としてのコミュニティカフェとは一線を画すると考えられる。

コミュニティカフェの成功例として、ビジネス手法を取り入れた例があるが、これは手法の問題であって、ビジネスそのものということではない。「コミュニティカフェは福祉事業であるが、運営にはビジネス感覚で当たらないとうまくいかない。」と言うことが妥当であると思われる。

②メニューの開発

カフェというからには、最低限飲み物を提供することになる。メニューの開発にあたっては、

(イ)コーヒーは専門店も少なくないし、こだわりの嗜好を持つお客さんも少なくないことから、コーヒーを前面に出すことはしない。

(ロ)紅茶はブレンドによって味は違うし、工夫の余地がある。また、知り合いで紅茶の講師がいる。

このような理由で、みたか・みんなの広場のおすすめとしては紅茶を採用することにした。

また、お客さんに喜んでいただくためには、メニューの決定だけでなく、最高の状態で提供する術(すべ)を身につけなければならない。そこで、各方面の専門家の方においでいただいて、講習会を開催した(10ページ記載)。

当初は、紅茶とコーヒーだけでスタートし、その後少しづつメニューを増やすことにして、「カフェ部会」を毎月開催してメニューの開発を行った。

暖かくなると、紅茶とコーヒーのアイス。これも講師の方に来ていただいて、マニュアルの統一を図った。アイスコーヒーについては、仕入先の焙煎店から情報を得た。

また、ノンアルコールビールを置いてみたりもしたが、反応はもうひとつであった。

③軽食

食事ができるとお客さんも増えるので、近くのパン屋さんの協力を得て、チーズサンド等の導入。また、関係するNPOの調理によるお弁当にも取り組んだ。

お弁当については、きちんとしたものを低価格でという方針で臨んだことから、収益にはつながることはなかったが、いいものを準備するとお客さんが来る、との確信を得ることができた。

また軽食として、障碍者団体でつくっているクッキー等を販売した。これも添加物は一切使ってない自然食品であったことで、保存期間等の管理に気を使う必要があったが、コンスタントな販売が続いている。

こういったメニューの開発を通じて、素人が食べるものを提供することは簡単ではないが、いいものを作ってお客様に喜んでいただくという経験は、ふつうの生活ではできるものでは

ないことから、最近はカフェ担当者も
喜びを持って対応できるように
なってきている。

手作りクッキー

④マニュアルの準備

飲み物や簡単な食事とはいえ、提供する責任がある。講師から学んだこと、経験のなかでわかったこと、開発したメニュー当については、すべてマニュアル化して全員が閲覧できるようにしている。合わせて、みたか・みんなの広場の開店準備から閉店施錠までのひととおりの手順についてもマニュアル化している。メンバーにマニュアル化を得意とする者がいて、しっかり指導してくれたおかげで、マニュアル遵守という意識も出てきた。

ただ、お客さんとのやりとりはマニュアル化しない方針とした。もちろん、来店時には挨拶はするが、各人が工夫して、よくあるマニュアル的挨拶はしないことにしている。

⑤カフェ担当体制

カフェであるから、サービス担当者を常駐させなければならない。この体制をどういうふうに組むかということも大きな問題であった。

事前に、カフェ担当者を募集してあったものの、各人の性格や技量はまったく把握できていない。基本的な講習会も実施したものの、本番となるとどうなるのか。また、各人の個人的な予定も考慮しなくてはならない。

ティンブラ(オレンジティー)

いろいろ検討した結果、以下のようにすることとした。

(イ)サービスに慣れるまでは二人体制とし、各人の技量を見計らったうえで、サロンが実施される時間は二人、それ以外は一人体制とする。

(ロ)毎月サロンの予定が決定したあと、各人の希望を聞きながら、担当日時を決定する。

(ハ)一人体制では、各人の技量を考慮する。

サロンの開催を踏まえ、各人の予定も考慮することから、固定的な体制をとることはできない。毎月体制を組み替えることは面倒なことではあったが、担当者を決めて毎月の体制を作成することとした。予定作成で週6日をうまく埋めることは簡単ではなかったが、なんとか体制を組んでみたか・みんなの広場を開園できた。ただ、一日だけ臨時休業とせざるをえなかったことは残念であった。

また、一年の間にもいろいろな事件が発生した。担当者のひとりがみたか・みんなの広場で倒れた(脳梗塞)こともあった。救急車を手配して最悪の事態になることは避けられたが、シニアを中心とする体制ではなにがあるかわからないし、その時の対処で後のことが大きく違ってくるので、気をつけなければならないと痛感した。

25.3月体制表		メイン担当		サブ担当		サロン	その他
		AM	PM	AM	PM		
1	金	北山	勝田			AM.親子で遊ぼう。マザーグース。 PM.乳がん友の会	
2	土	谷野			鳥山	PM.ママと子供の科学遊び	
3	日						
4	月	鈴木					
5	火	鈴木					
6	水	佐藤					
7	木	勝田					
8	金	加藤					
9	土						
10	日						
11	月	鈴木					
12	火	藤田					
13	水	勝田					
14	木	佐藤			鳥山	PM.ボールを使ってリフレッシュ	
15	金	藤田			森松	AM.旅カフェ「ロシア」 PM.乳がん友の会	
16	土	谷野			鳥山	PM.般若心経を読む会	11:00カフェ部会
17	日						
18	月	藤田					
19	火	鈴木			森松	PM.みたかオレンジカへ	
20	水	勝田					
21	木	佐藤		鳥山		AM.親子で遊ぼう。マザーグース) PM.ボールを使ってリフレッシュ 夜。ケアに関する読書会	
22	金	勝田					
23	土	谷野				PM.マンション管理相談	
24	日						
25	月	鈴木					
26	火	藤田		鳥山		AM.家族コミュニケーション PM.笑って楽しい江戸小話	
27	水	藤田					
28	木	加藤			鳥山	PM.ボールを使ってリフレッシュ	
29	金						
30	土						
31	日						

カフェ体制表

⑥ご来場者の実績

カフェにおいでいただいた方の実績を示す。

開園以来、みたか・みんなの広場への来場者は徐々に増えて、月間250名に届くところまで来ることができた。

目標数については、これはみたか・みんなの広場の場所がまだ決まらない段階で計画したものであり、評価しがたいが、池袋でコミュニティカフェをやって、今年で7年目になる「みんなの縁側」のご来場者が月間200名であるということを参考にした、来場者には季節変動もあり、一年という短期間の運営では評価も難しいが、決して悪い結果ではないと思われる。

みたか・みんなの広場にお出でになる方は、

・毎月新しい方がお見えになる。

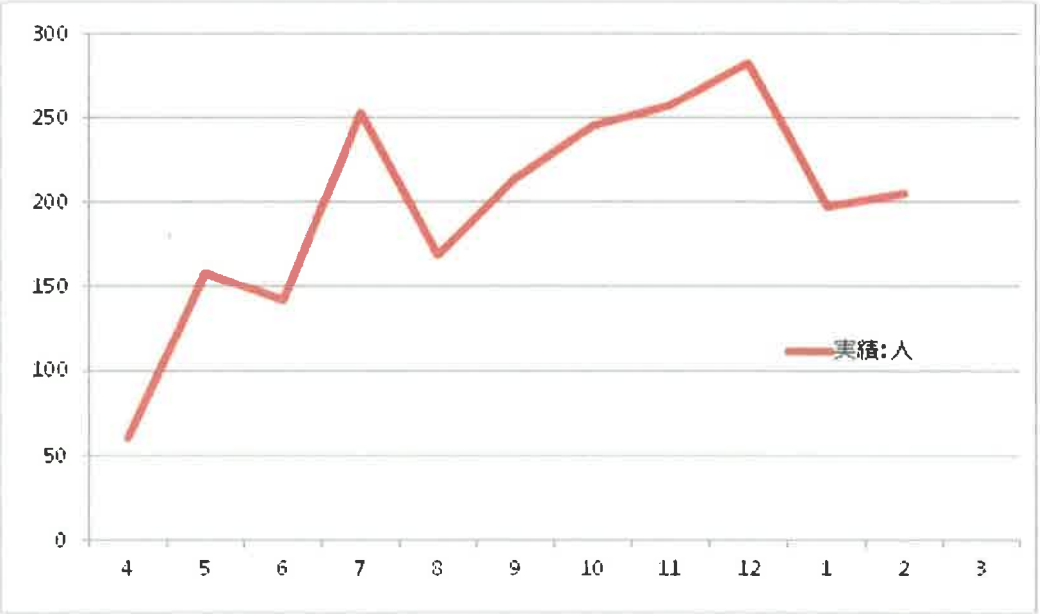
・定期的にお弁当を購入する方も出てきた。

・会社員の方が、御茶請けにクッキーを買いに来られる。

等スタッフの生の声があり、お客さんが着実に増えていることを実感している。

ただ、地域に根差すには、この一年の経過から判断する限り、数年が必要であると考えられる。 この意味では、資金的な理由で現在の場所を維持できないことは残念至極である。しかし、後述するように新しい拠点を確保することができたことで、新たな可能性に挑戦することができるようになり、現在の場所での経験を活かすことができることになる。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実績：人	60	159	142	253	169	214	245	257	283	198	205	



カフェ来場者の推移

＊カフェ来場者には、サロン来場者を含む。数量の把握は販売した飲み物等の集計である。

カフェ事業にとって(サロン事業も同様だが)来場者にとってのネックが一点ある。それは、駐輪場がない、ということである。駐輪場については、市とも相談したが、近くに可能なスペースがなく、来場者へ迷惑をかけていた。7月になって、市から、「地区公会堂でよければ。」という連絡があった。地区公会堂はみたか・みんなの広場から徒歩で5分ほどのところであり、スペーフ的には問題はないので、利用をお願いすることとした。地区公会堂は指定管理者として町会が管理していたので、町会長さんへお願いにあがると同時にみたか・みんなの広場への来場も促した。ここは、3月末まで利用させていただき、おかげで自転車での来場者には大きく役にたつこととなった。

将来的にカフェを考える場合は、駐輪場は必須条件であると実感した次第である。

(6)サロン事業

カフェ事業と並ぶ事業として考えているのがサロン事業である。

①目的

サロン事業の目的は以下のとおりである。

(イ)今回の事業の目的のひとつに、「点から線、線から面へ紡ぐ市民活動の拠点」ということがある。各構成員は、日常的な活動の場を持たないため、活動場所の確保に苦労している。また、活動場所が変わることで、固定的な支持層を作り上げることが難しく、「定点での活動」をすることの重要性を感じている。

したがって、みたか・みんなの広場を「定点」として活用することで、各構成団体の活動の活性化を狙うこととした。

(ロ)カフェを開いて来客を待っているだけでは客数の増加が見込めるものではない。市民に興味のある催しをできるだけ多く開催することで、客数の増加を図ることとした。サロンの開催は主催者に一任することで、みたか・みんなの広場としての負担を軽減し、かつ集客効果をねらったものである。

結果としては、各主催者が多様なサロンを開催することで、老若男女を問わず、お客さんを集めることができた。ねらいどおりである。

(ハ)市民活動をしているグループの中には、活動の場を求めているケースが少なくない。費用負担なしで利用できる施設は公的な施設が多いが、公的な施設は制約もあるため、気易く利用することが簡単ではない。そういったニーズに応えることで、新しいコミュニケーションにつながると考えている。

今回の取り組みでも、あとから参加したサロン主催者は5名にものぼる。

②実施概要

(イ)サロン事業の募集

各構成団体及び関係する団体にお願いして、サロンを企画していただくことからスタートした。そして、後述の広報活動によりサロン開催と参加者の増加をねらうこととした。

4月のサロン数は4回と早くも当初計画を上回ることができた。これは各団体の今回のサロン事業に対するニーズを表している。

(ロ)広報活動

みたか・みんなの広場立ち上げ当初の広報だけでなく、毎月の広報活動をすることの必要性は市民を対象にする場合には欠くことができない。そこで、みたか・みんなの広場の活動をサロンの内容を中心にして、チラシの配布を行った。枚数としては月間4千枚である。ホームページは当然のことである。

ホームページトップ

③サロン事業の実際

年度末である3月のサロン活動の内容は以下のように多彩なものである。

・親子で遊ぼう。マザーグースと英語教本

親子で英語遊びをしながら、英語への興味を持たせようというもの。

・乳がん友の会

実際に乳がんを患った方々と家族が悩みを話し合う。この会合は、みたか・みんなの広場をきっかけにスタートしたが、4月から「**桃の会**」として活動をすることになった。みたか・みんなの広場が産みの親になったもので、たいへん喜んでいる。

・ママと子供の科学遊び

子供に対して、科学の面白さを教えるという試み。

・ボールを使ってリフレッシュ

産後の方の体調を整えようとするもの。主催者は、高齢者向けにも同様の取り組みを行っている。

・旅カフェ

旅行好きな主催者が、旅の楽しみを語るもの。

・般若心経を読む会

般若心経を読んで考えようとするもの。毎月開催しているが、シニアに好評である。

・みたか・オレンジカフェ

高齢者問題特に認知症についての相談を受けている。

・ケアに恋する読書会

主催者は介護事業に従事している。介護の関係者を中心にした関係図書の読書会。

・マンション管理相談

マンション管理者が相談を受けるもの。

・心を支えるママになる「家族コミュニケーション」

コーチング事業を行っている主催者が、子育て支援をするために開催している。

・笑って楽しい　江戸小話の集い

江戸の笑いをいいコミュニケーションの確立に役立てようという試み。

次ページに3月に配布したチラシを掲載する。

ママと子どもの科学遊び風景

コミュニティカフェサロン

みたか・みんなの広場 催しのご案内

みたか みんなの広場・ 2013年3月

※お申し込み・お問い合わせは各催しの主催者へ直接お願いします　※自動車でのご来場はご遠慮ください
※コミュニティカフェサロンご利用の方は必ず１品オーダーをお願いします

3/ 1(金) 3/21(木) 11:00 ~12:00	**『親子で遊ぼう。マザーグースと英語絵本』** 内容：英語歌の手遊び、簡単な工作、絵本の読み聞かせなど。 定員：親子４組　参加費：親子１組 500 円（飲み物代として） 対象：１～３歳のお子さんとお母さん　主催：石川久美（ラボ・チューター）	親子のお名前・お子さんの年齢（月齢）・連絡先・あれば好きな絵本の題名を添えて。 メール kumigomachan0710@gmail.com TEL&FAX 0422-42-7443 事前申込み：3/1分は2/27(水)まで 3/21分は3/19(火)まで
3/ 1(金) 3/15(金) 13:30 ~15:00	**乳がん友の会** 内容：乳がん体験者同士で楽しくお茶を飲みながらの交流 参加費：600 円　対象：乳がんをされた方、再発を含む治療中の方、他どなたでも 主催：家田いく子	メール iikuco.510@ezweb.ne.jp TEL 090-6150-3091（家田） 事前　当日OK
3/ 2(土) 14:00 ~16:00 小学生 幼稚園児	**ママと子どもの科学あそび** **～７色のぶんぶんコマをつくろう～** 定員：申込順５家族（１家族３名でも可）　材料費：１家族 200 円 対象：幼稚園年中組から小学生と保護者 主催：三鷹科学あそびの会（黒須、渋谷 他）	お名前に年齢を添えてください。 メール yishimura@u01.gate01.com TEL 080-6627-3551（石村） 事前　当日OK
3/14(木) 3/21(木) 3/28(木) 【前半】 13:30 ~14:20 【後半】 14:30 ~15:20	**ポールを使ってリフレッシュ** **～産後のママのリラクゼーション～** 内容：ポールを使って体の歪みを解消し、正しい姿勢をとりもどしましょう。 定員：６名（前後半 ３名ずつ）　参加費：500 円 対象：６ヵ月までの赤ちゃんのママ（赤ちゃんと一緒にご参加ください） 主催：チーム さくら	前日までに電話か FAX で。 TEL&FAX 0422-41-6158 （「チーム さくら」ものえ） 事前
3/15(金) 10:30 ~12:00	**旅カフェ「美味しい、幸せなロシア」** **～飛行機でたった２時間のハバロフスク** 内容：近くて遠い国ロシア　現地での生活は美味しく幸せなひとときでした。 定員：10 名　参加費：500 円（飲み物代込み）　対象：どなたでも 主催：ヒッポファミリークラブ三鷹（青井）	お名前・連絡先を明記してください。 メール mitakahippo@gmail.com TEL 070-5464-5715（青井） 事前申込み：前日まで
3/16(土) 13:30 ~15:00	**般若心経を読む会** 内容：般若心経の意味を考えます。　定員：10 名 参加費：500 円（飲み物・資料代込み）　対象：どなたでも　主催：成清一夫	TEL 080-1362-5359（成清） 事前　当日OK
3/19(火) 13:30 ~16:00	**みたか・オレンジカフェ** **～お茶をのみながらの高齢者問題と認知症なんでも相談～** 内容：毎回、専門家１名と介護経験者数名がチームでご相談に応じます。 定員：10 名　参加費：無料 対象：高齢者問題と認知症が心配な方、家族に認知症の方が居られてお困りの方 主催：みたか・認知症家族支援の会（渋谷、石村 他）	当日、直接会場まで。 お友だちとご一緒も歓迎。 メール yishimura@u01.gate01.com TEL 080-6627-3551（石村） 事前　当日OK

裏面へつづく

④みたか・みんなの広場主催サロン

当初、サロン事業の実施が見込めなかったことで、みたか・みんなの広場としてサロンを企画することを考えていたが、上記のように多彩なサロンが開催されたことから、みたか・みんなの広場主催のサロンは基本的に見送ることとした。ただ、みたか・みんなの広場を運営するために必要なことについては、随時構成員を対象にサロンを開催することとした。
この目的で開催したのが、以下のふたつである。

(イ)田中直尚輝氏:新しい公共について(9月17日)

東京では、新しい公共のモデル事業が30数事業、三鷹でも3事業あるが、他の事業の状況がまったくわからないため、いま自分たちで取り組んでいることが、うまくいっているのかそうでないのか、客観的な見方ができない状況であった。

そこで、お呼びしたのが田中尚輝氏である。田中氏は長野県で新しい公共の委員を務めつつ、コミュニケーションカフェの全国的な推進活動を行っている。たまたま、構成員のひとりが田中氏と既知の間であったことから、来鷹をお願いをした。お聞きしたかったことは、①各団体の取り組み状況、②来年度の新しい公共の行方、の二点である。

①については、田中氏も具体例をお持ちではなかったが、新しい公共に限らない全国での諸団体の活動をお聞きすることができた。そのなかで、複数の団体の合議制による運営の難しさ、またコミュニケーションカフェの成功例をお聞きすることができたことは今後の参考になる。ただ、「家賃が高い」という三鷹の状況を解決するための解決策は本当に難しいと思わざるを得ない。

②「来年度は新しい公共の助成金はない」と明言された。やはりそうか、ということではあったが、期待がないわけではなかったので、やや失望感も感ずることとなった。
ただ、田中氏としても「新しい公共の灯を消すな」ということで、その後全国的な運動を行っているので、機会があれば参加を、とは思っている。

田中尚輝氏

耳を傾けるメンバーたち

(ロ)英国介護事情報告ー矢部久美子さん(10月29日)

当構成員の友人である矢部氏は英国在住の方で、帰国中である。英国介護問題に詳しい方であり、お話をしていただけるというので、主催セミナーということで企画をした。

英国での介護は日本以上の大きな問題を抱えているが、その解決のためにNPOの力を活用しているという。NPOも全国的な組織で、職員を雇用をし、助成金を活用して介護にあたっている。また、組織は複数あり、地方組織も全国にある。

我々が日本で考えるNPOの概念とは異なり、英国のNPOは、強固で広範な組織力とボランタリーで柔軟な対応力を併せ持ち、NPOの活動によって介護問題が大きな問題となることから避けることができている。

というような内容の話であった。日本の実情とはまったく異なる話なので、なかなか理解できないし、質問もできない状況であった。ただ、NPOが行政に代わって、介護問題の解決の大きな役割を果たしていることははっきりとわかった。

日本でも介護はすでに大きな社会問題となっているし、遠くない将来、行政もNPO等の力を活用せざるをえない時代がくるのではないか、ということを感じさせられる2時間であった。

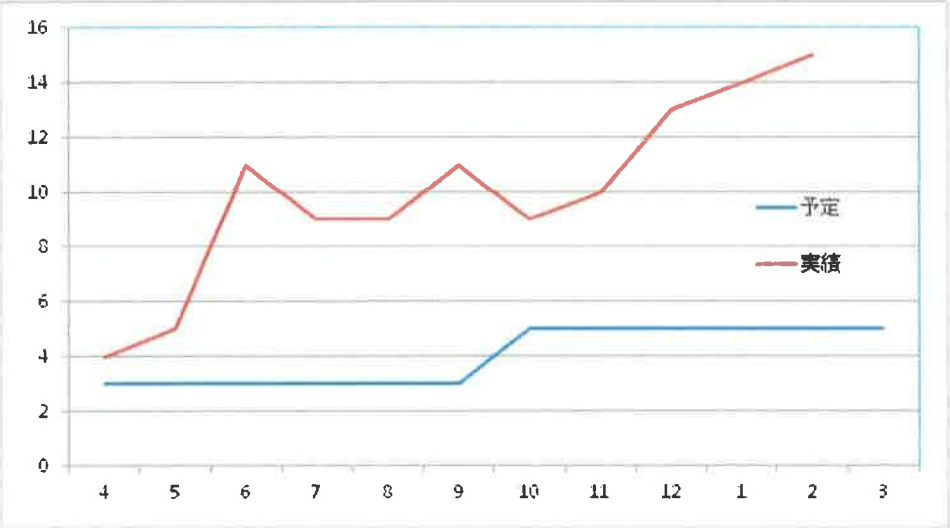
矢部氏は次回お帰りになった際にも、再度お話をしていただけるということになっているので、日本の実情の理解をすすめながら、介護先進国たる英国のことを学ぶ機会になればと期待している。

英国介護事情報告

⑤サロン実績

サロン実績は以下のとおりである。当初の目的以上に推移してきた。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
予定	3	3	3	3	3	3	5	5	5	5	5	5
実績	4	5	11	9	9	11	9	10	13	14	15	



委託サロンの件数

⑥事例研究

活動の参考にするために、他団体の活動の実例の視察も行った。

(イ)テンミリオンハウス(武蔵野市)

テンミリオンハウスは隣接の武蔵野市で実施されている高齢者への支援事業であり、空き家物件をNPO等への提供し、高齢者へのサービス提供や生きがいの場づくり等に積極的に取り組んでいること。

三鷹市に、テンミリオンハウスが参考になるのではないか、という問い合わせをしたところ、「三鷹はコミュニティセンターを中心とした事業を考えており、テンミリオン的なことをやる考えはない。」という回答があった。後に、テンミリオンハウスは建物のメンテナンスに非常に経費が掛かるということを聞き、高齢者事業の難しさを実感した次第である。

テンミリオンハウス

(ロ)みんなのえんがわ(豊島区池袋)

みんなのえんがわは今年で7年目になるコミュニティカフェである。当初は行政の支援を受けたが、現在は自力で運営しているということで、採算のとり方に非常に興味があった。

率直に聞いてみたところ、きちんと回答をしていただいたことには、「これぞ、市民活動。」と思ったものである。

ただ、回答の内容から、自力とは言うものの、最終的には個人の持ち出しになっていることになっていることがわかり、カフェの自力での運営の難しさを痛感させられ、みたか・みんなの広場の今後の運営に大変参考になる事例である。

みんなの縁側の厨房

(ハ)カフェ港南台

最近成功例として取り上げられるのが、カフェ港南台である。遠方であることからお伺いすることはできていないが、様々な形で情報収集した結果、創意工夫の重要性を再認識し、その地域に合った工夫でなければ効果がないということもわかってきた。

このほか、調布市でも空き店舗を利用したカフェが行われているという情報も得たが、お邪魔する機会を得るに至っていない。

最終的には、三鷹という地域性をいかすためには何が必要か、という問いに対する答えを見つけることが、みたか・みんなの広場というカフェ事業の成功につながることだと思っている。

(7)町会等応援事業

カフェ事業の展開として、町会相談事業及び個人の相談事業をも目的としている。

各相談事業に必須のものは、「信頼関係」である。

今回の事業は開始から一年であり、地元との協力体制をつくるには不十分な時間でしかなかった。しかし、そういう状況下でもできることはやらなければ、と可能性を追求し、外壁に「なんでも相談」のチラシを掲示をしたり、ポスティングチラシにも同様の記事を掲載した。また、「がんばる三鷹応援プロジェクト」で活動の周知も図った。

この一年の間には、5件の相談があった。内容としては、

①孤独解決相談　2件
②就業相談　1件
③障碍者相談　1件
④マンション管理相談　1件

相談事業は、正式には上記5件であるが、そのほかにカフェへ来られた方やサロンに参

加されたからの悩みごとや困ったことについては、構成団体である NPO 等やその他の関係団体を紹介し、一歩でも解決に近づけるようにお手伝いをすることを心掛けた。

あるとき、高齢者の方から、「一人住まいで話相手がいない。なんとかならないか」という相談を受けたので、当協議会の構成団体が運営する高齢者のための「あずましの輪・井口」を紹介したところ、その後定期的にお出でになるようになった、という実例もある。

今後、みたか・みんなの広場の重要な役割として、相談事業を位置付けなければならないということを実感した。

個人的な相談事業は上記の結果であったが、町会については、個人以上に難しいことで、相談には至らなかった。当初、隣人たちに来ていただいてほっとしたものだが、その後は継続することがなくなってしまったことは、残念であった。

小学校児童の送迎を行っている別のブロックの方々は、送迎の都度定期的にみたか・みんなの広場に来ていただくことができ、そのご縁で第六小学校からの要請で子供の見守り活動をすることにもなっている。

また、みたか・みんなの広場での活動をきっかけに、構成団体での共同取組みも始まる等、みたか・みんなの広場の周辺で新しい動きが始まったという、うれしいニュースもある。

(8)その他の関連する活動

このほか、市内のいろいろなイベントや会合参加による広報活動等を行った。

実績としては、以下の通りである

①5月11日　三鷹市地域ケアネット事業への参加

地域ケアネットは市の最重点目標「コミュニティ創生」を担う具体的な活動である。現在、市内の3地区でケアネット事業を開始しており、みたか・みんなの広場のある連雀地区では25年度中のケアネット事業の立ち上げを準備している。その準備会に当協議会も市から参加を要請され、現在準備会委員として活動している。当協議会としては、準備会への参加にとどまらず、ケアネット事業の実行段階でもなんらかの役割を果たしていきたい、と考えている。

②5月18日・6月9日　　町会老人会での説明

市内にはいくつかの老人会があるが、市の紹介により、老人会の定期会合でみたか・みんなの広場の紹介をさせていただいた。老人会の方も講演会やチラシで、すでにみたか・みんなの広場のことをご存じだった方もいらっしゃって、スムースに紹介をさせていただくことができた。

③6月2日　　がんばる地域応援プロジェクトでの案内

がんばる地域応援プロジェクト(正式名称:三鷹市町会等地域自治組織活性化事業)はNPO等の市民活動団体と町会活動のコラボレーションを狙った市の助成事業である。みたか・みんなの広場はこの場をきっかけに誕生したが(前述　5ページ)、この事業の三鷹市窓口は、当協議会を担当しているコミュニティ文化課でもあり、プロジェクトには積極的に参加させていただいている。会合は年2回開催されるが、今年度2回目の2月9日には、みたか・みんなの広場の活動状況をチラシの配布のみならず、映像でも紹介させていただくことができた。

④7月7日　ボランティア連絡協議会総会での活動紹介

ボランティア連絡協議会は、ボランティアセンターを拠点にして活動する団体の連合体である。当協議会のメンバーも会員であることから、いろいろなところで接点を持っている。今回は、年一回の総会で話をしていただきたい、という要請を受け、みたか・みんなの広場の活動を紹介させていただいた。ボランティア連絡協議会はもう10年以上も活動を続けているが、みたか・みんなの広場との活動の連携には前向きであり、非常にありがたいことだと思っている。

⑤8月7日　　三鷹市コミュニティ創生研究会での発表

三鷹市の最重点目標は「コミュニティ創生」である。その目的を達成するために、市は研究会を開催している。その研究会でみたか・みんなの広場の紹介をするように依頼を受け、話をさせていただいた。研究会のメンバーは、みたか・みんなの広場オープンの時に見えた方もたくさんおられて、行政の会議ではあるが、緊張することなく話をさせていただいた。翌月には、研究会に招聘された先生のコメントがあるというので、市にお願いして参加をさせていただいた。

その場には、市で今回の助成金をいただいて活動している他の2団体の方も見えていた。同じ助成金で活動しているということで、他団体がどのように活動しているかは、前まえから

興味があったが、これまで情報を得ることができなかった。今回はじめて会議で同席できて、活動の概要を知ることができた。

これまで、同じ目的で活動をしているもの同志の連絡がまったくなかったということは、ちょっと奇妙な、複雑な、そして残念なことであると感じている。

⑥11月 17･18 日　NPOフォーラム参加

NPOフォーラムは、三鷹市市民協働センターで開催されるNPO等活動団体の活動発表と交流の場である。毎月一回開催され、今回で11回目となる。NPOフォーラムには、役80の団体が参加し、一般の市民の方も多数参加される一大イベントである。当協議会のメンバーも大半はこのフォーラムに参加する。

みたか・みんなの広場もこの場を活用しない手はない、ということで、活動紹介にとどまらず、なんらかの形で独立した催しをやりたいと考え、3か月ほど前から準備にとりかかった。討議の結果、①代表によるみたか・みんなの広場の活動紹介、②市民参加による「みたか・みんなの広場でやりたいこと」グループ討議、③来場者へのコーヒーサービス、を一時間で行うこととした。

準備された時間は、土曜日の午前中という、まだ来場者の少ない時間帯ではあったが、大会議室での催しということで、20名ほどの方に参加をしていただくことができた。グループ討議を盛り込んだことで、一方的な話ではなく、市民の方のみたか・みんなの広場に対する考え方をお聞きすることができた。

NPOフォーラム(1)広場の説明

⑦12月15日　ボランティア連絡協議会での説明

ボランティア連絡協議会は⑤の総会でも説明をさせていただいたが、今回は幹事会での意見交換である。表面的な活動だけでなく、活動にあたっての苦労話や人材発掘等について幅広く意見交換をさせていただくことができた。特に、三鷹市に限らず、後継者については、どこの活動団体でも同じような問題を抱えていると聞いている。団塊の世代をどうやって活動に取り込んでいくか、ということが大きな課題のようだ。

当協議会としては、経験豊かなボランティア連絡協議会とは今後も良好な関係を続けていきたい。

⑧3月8日　川崎市コミュニティカフェ勉強会

某日、みたか・みんなの広場に川崎市の職員から電話が入った。同市でコミュニティカフェの勉強会をしているので、みたか・みんなの広場の活動を紹介したいということである。なぜ、私たちを？ということに対して、複数の市民団体が協力してコミュニテカフェの運営に興味がある、という。ありがたくお話しをお受けした。

当日は、20名ほどの方がお集まりになり、みたか・みんなの広場の話を聞いていただいた。ただ、いろいろお話を伺っていると、市の担当者の方は熱心だが、まだ市民の方の具体的な活動には至っていないと言うことである。みたか・みんなの広場も一年前には同じ状態であったので、できるだけ具体的にお話をさせていただいた。

NPOフォーラム②グループ討議
「みたか・みんなの広場でしたいこと」

(9) 協議会の運営

当協議会の運営及び各事業の検討については、下記委員会を設置して対応している。

①運営委員会

協議会全般のことについて、協議・決定する。構成メンバーは各構成団体の代表及びカフェ事業部、サロン事業部の責任者、経理担当者である。

運営委員会は毎月実施した。簡単な事項については、メーリングリストで対応するようにしたが、当初は取り組まなければならない課題も多かったので、必然的に毎月の開催が必要であったし、下半期は、来年度からの方針等を決定するためにも毎月の開催が必要であった。

運営委員会は、全員参加が原則であるが、十数名全員の日程調整は困難であることから、結果については議事録を作成し、メールで配信した。

当初は、各団体の立ち位置が異なることから、意見をまとめることが難しい場面もあったが、半年ほど経過し、お互いの立場を理解することができてからは進行もスムースになり、きちんとした議論も可能となった。今回のように、複数の団体が協力して事業を行うためには、この過程をうまく通り抜けなければならない関門であろう。

運営委員会（10月15日）

②カフェ事業部会

カフェの開園は、日曜日を除いて毎日11時から5時までとした。したがって、カフェ要員の方が一番長く活動場所に滞在し、お客さんとの対応もあることから、カフェ要員同志のコミュニケーションが重要であると考え、カフェ要員たちだけでの会合を持つようにした。

カフェ要員は毎日変わるので、毎日の注意点や引き継ぎ事項について、引き継ぎノート

を準備して活用した。また、広場全員にかかわることについては、メーリングリストへ情報を流すことにした。

引き継ぎノートやメーリングリストでコミュニケーションを図ることで、カフェ事業がスムースに運営されるようになった。

③サロン事業部会

サロン運営の難しさは、構成団体以外の方によるサロン開催と来場者への対応の両方である。みたか・みんなの広場という市民一般に開放された場を提供することが目的であるので、市民の方を制限するようなことは避けなければならない。一方、本活動に悪影響をもたらす可能性のある方への対応、この二律背反について、当初から議論がまとまらず、結論に至るまで、3回の運営委員会が必要であった。

そして、

（ｉ）サロン開催希望者には、利用申し込み書を書いていただき、みたか・みんなの広場の代表または事務局長が面談をしてから可否を決定する。

（ⅱ）不測の事態には、代表が対応する。

ということでなんとか決着した。

この決定を受けて、サロン事業部は、毎月のサロンの運営にあたってチラシを作成して配布することとした。作業としては、

（ｉ）翌月のサロン事業を募集する。

（ⅱ）申込者と連絡をとって、日程調整を図る。

（ⅲ）チラシの編集

（ⅳ）チラシの印刷

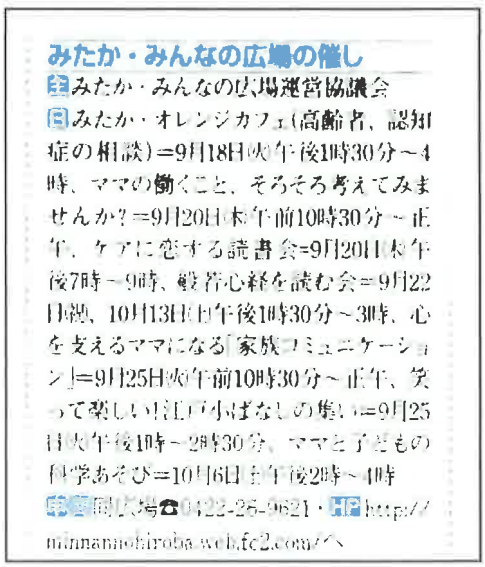
（ｖ）チラシの配布

という一連の作業である。

この作業は、構成団体のひとつにお願いして進めることができたが、一人作業ではこなせないものであり、毎月の定型作業でもあるので、市民の活動としては、かなり大変なものである。これを一年間問題なくやっていただいたことに対して、各構成員としては深く感謝しなければならない。

チラシは毎月 4,000 枚を印刷して、(イ)市の配布システムの利用（市内各公共施設60か所へ配布）、(ロ)メンバーによるポスティング、(ハ)他団体への依頼によるポスティングという方法で配布を行った。サロンへおいでになる方にお聞きすると、ポスティングされたチラシを見て参加された方も少なくない。

また、サロンについては、市の広報紙も利用したが、(イ)広報誌は月2回の発行であり、当広場のサロン開催時期とのズレがあり、日程調整が難しいこと、(ロ)狭いスペースにたくさんの情報が詰まっていることで、内容が分かりにくい、という問題があり、


みたか・みんなの広場の催し

主 みたか・みんなの広場運営協議会

日 みたか・オレンジカフェ（高齢者、認知症の相談）＝9月18日(火)午後1時30分～4時、ママの働くこと、そろそろ考えてみませんか？＝9月20日(木)午前10時30分～正午、ケアに恋する読書会＝9月20日(木)午後7時～9時、般若心経を読む会＝9月22日(土)、10月13日(土)午後1時30分～3時、心を支えるママになる「家族コミュニケーション」＝9月25日(火)午前10時30分～正午、笑って楽しい！江戸小ばなしの集い＝9月25日(火)午後1時～2時30分、ママと子どもの科学あそび＝10月6日(土)午後2時～4時

申 問広場☎0422-25-0621・HP http://minnanohiroba.web.fc2.com/へ

広報みたか掲載

広報誌の活用については、今後活用方法を検討していかなければならない、と考えている。

(10) 事業継続準備

事業の継続は、助成金の決定をいただいたその日からの最大の課題であることは、当協議会全員共通の認識であった。
みたか・みんなの広場オープン後半年経過した9月の運営委員会で、来年度の運営方針を議題として取り上げた。現実の課題として、
①広場の売り上げは、現拠点の賃貸料金をカバーするにはまったく不足である。
②別の収益事業の取り組みも、現在の状況からは難しい。
この現実を踏まえて、「みなさん、どうする？」と問いかけたところ、「やめないよね！」という反応がすぐにあった。
この一言をきっかけとして、事業の継続へ向けてなんとか頑張ってみようという意思統一ができた。またすぐに新しい拠点を確保できない場合でも、継続的に探すこととなった。

賃貸料金が負担できない以上、家賃ゼロを目指すしかない。そこで、
①三鷹市にお願いして、市が所有する管理施設の一部をお借りする。
②民間へ向けて無償でのお願いをする。
というふたつの方向性で働きかけをすることとした。

①市への働きかけ

ただちに三鷹市民協働センターに、関係する部長との面談の橋渡しをお願いした。
お願いの内容は、
(イ)みたか・みんなの広場は、市の重点目標である「コミュニティ創生」と軌を一にするものであるとの考えから、コミュニティ創生活動のモデル事業として位置付けていただき、事業のための場の提供をお願いした。
(ロ)場の提供があれば、あとの費用はすべてみたか・みんなの広場の負担で行う。
この申し出を基本にして、10 月から市の関係する部課長と、1月末まで都合5回ほどの話し合いをさせていただいた。その結果、市からも数か所の利用可能な場所の提案を受け、そのひとつひとつについて検討していただいたが、
(ⅰ)現在の各施設の利用規約を考えると、週に一日の利用は可能であるが、それ以上は、現在利用中の方々との関係で難しい。
(ⅱ)施設には、現在使っているみたか・みんなの広場の備品の持ち込み(常駐)はできない。
との回答であった。
三鷹市には「コミュニティ創生研究会」という横断的な研究会があり、みたか・みんなの広場も8月に活動状況を説明させていただく機会があった。このような取組が進められているにも関わらず、私たちの希望がかなえられることはなかった。
近隣の市町村でもそれなりにコミュニティ活性化活動が具体的に始まっているにもかかわ

らず、市の準備がいまだ具体化されていないことから、結果に結び付けることができなかった。

②民間との取組み

事業開始以降、コミュニティ活動という観点からいろいろな方との接触があった。その方々にみたか・みんなの広場の趣旨を説明し、お願いする機会を何度かもつことができた。

具体化したものを列挙してみると、

(イ)デイサービスを行っていた個人企業のサービス停止後の跡物件の利用(牟礼)

(ロ)ホームホスピスを始め方の建物の昼間の利用(牟礼)

(ハ)ボランティアセンターの一室の利用(下連雀)

(ニ)病院の運営する、高齢者向け活動施設「みんなの家」の利用(下連雀)

篠原病院みんなの家外観

それぞれについて、相手の方は非常に真摯に対応してくださった。場所条件、利用条件等を勘案した結果、(ニ)の病院施設「みんなの家」にお世話になろうという決定をしたのが3月11日である。利用可能な時間は、固定的に利用できる3時間と必要に応じて利用できる3時間の週2回である。

とにかく、みたか・みんなの広場を継続するためには、細いつながりであっても確保しなければならないという思いで決定をした。この時点でなんとか継続が可能になって安堵したものである。

この報告書を書いているのは3月16日であるが、報告書を書いている最中に電話が入った。

「貸してくれる方が見つかった！」

そして、貸していただける方は、実に、元三鷹市長であった故坂本氏のご遺族であった。

元市長が亡くなった後、住居が空いたままになっているので、そこを使って良い、というまさにこれ以上言うことのない最良のお申し出である。

すでに鍵も預かっているという。すぐに三役に連絡をとり、現地に出かけて場所を確認させていただいた。りっぱなお宅であり、一階部分の二部屋を利用させていただけるとのことである。

その足で、関係者全員でご遺族のところに出向き、ぜひお願いしたいということで挨拶をさせていただいた。

先方からも「そのような目的で利用していただけると、坂本も喜ぶと思います」と感謝筆舌に尽くしがたいご言葉をいただいた。

これまで、半年間探し続けて、皮一枚の状況にあったのが、3月16日を機に新拠点として、「篠原病院みんなの家」と「元市長宅」とあわせて週4日のみたか・みんなの広場開園が可能となり、事業継続へ向けての大きな展開へと舵を切ることができるようになった。

この間の各関係先との折衝状況は以下のとおりである。

(イ)2月11日　①デイサービス停止後物件（牟礼）

先方は、運営委員会事務局長の旧知の間柄であり、その方は 18 年間継続してきた介護事業とデイサービス事業を休止する。その跡地で、ご本人は高齢者向けのカフェをやりたい希望を持っているので、共同での実施を申し入れたらどうか、ということであった。

さっそく、出向いて当広場の紹介をさせていただき、提携の申し入れを行ったところ、「いいですよ。」と快諾をいただくことができた。

一週間後に引っ越しの打合せをいうことでみたか・みんなの広場においでいただいて、備品類についての打合せを始めたところ、グラスは使わない、湯呑みは取っ手がついていないとダメ、というように、介護保険を利用できない高齢者の居場所づくりを目指しており、全方位での活動を目指す私たちとは考え方に相当のギャップがあることがわかった。

後日、関係者で検討した結果、ターゲットにも考え方にもだいぶ違いがあるので、事業の共同実施は難しいという結論になり、先方にはお断りをすることとした。

(ロ)ホームホスピス物件（牟礼）

また、当協議会の副代表と介護事業でつながりのある方が、賃貸物件を手当てして、そこでホームホスピス事業を始めるが、建物の一階が空いているので、そこを提供してもよい、という情報が届いた。

2月25日、ご本人とお会いして当広場の説明をするとともに、場所提供が可能であるかどうかを確認したところ、「いいですよ。」という回答であった。

その方は、ナースとして病院で働いており、日中はだれもいないという。悪くはない話ではあったが、女性一人で家賃を払いながらの事業をしている方のところに、みたか・みんなの広場ががわっと押しかけるのは、道義的に賛成できないという声が多く、お願いすることを断念した。

ホームホスピス物件

(ハ)ボランティアセンターの利用（上連雀）

ボランティアデンターは市の所有で管理を指定管理者に委託している。その一角が空い

ているということで、関係部部長に問い合わせをしたところ「管理は委託しているので、そちらへ」という回答であった。ただ、これから指定管理者にお願いして、市の承認を得るには、時間が足りない。センターの利用は将来的には考慮すべきことではあるが、今回は検討の対象から除くこととした。

(ニ) 篠原病院併設施設(下連雀)

3月4日運営委員会席上で、みたか・みんなの広場のメンバーの一人から「現在、篠原病院「みんなの家」で活動をしているが、1日か2日なら利用できるかもしれない。」という話があった。

そこで、8日に出向いて、事務局の方にお会いして趣旨をお話ししたところ、快諾を得た。そして、今回提案したメンバーがそこで10年近く活動を継続しているという実績を考慮していただいて、通年固定した時間を取っていただけることとなった。

ただ、病院併設であることから、一般向けの営利活動はできないこと、設備的に飲み物の提供には制約がある、という問題点はあったが、とにかく現在の活動を継続するためには、週に一回のサロン事業だけでも続けて実績を残す必要があると判断し、当面はここでみたか・みんなの広場活動を行うこととした(3月11日拡大運営委員会)。

現在の備品を持ち込むわけにはいかないので、仮置き場の確保(事前に依頼をして決定していた)とカフェをどうするかという懸案を残して、最低限の継続が可能となったことに安堵した。

(ホ)元市長宅(下連雀)

3月16日のことについては、先に書いたとおりである。

(ニ)のみんなの家の取り扱いをどうするかということを議論したが、みんなの家は現在の広場に近いこともあり、これまでのお客さんのサービスを継続できる、ということで、旧市長宅とあわせて、二か所でみたか・みんなの広場の運営を行うこととした。

あとは、引っ越しと新しい場所での準備が残るだけである。

(11)事業全般の実績

以上、今回の事業が、行政にとっても私たちにとっても新しい取組みであるので、記録の意味をふくめて、各事業について記述した。

2012年12月13日に新しい公共の報告会が開催され、発表団体のなかにコミュニテカフェ事業報告もあったので、興味を持って聞かせていただいた。その発表では、2012年は準備期間であり、カフェのオープン予定は 2013 年3月だということであった。みたか・みんなの広場のオープンは昨年の4月であった。各団体の参加者や運営はいろいろあるとはいえ、みたか・みんなの広場としてはこの一年間は実際活動できたこと、さらに来年度に向かって活動が継続できることになったことは、評価していただけることだと自負している。

ただ、時間が経過すると最初の緊張感を維持することが難しくなるので、新しい人材を募

集する等、日々新しいことができるような運営や工夫をやっていかなければならない。また、その先も見据えるならば、後継者の育成も必要である。将来に向けて、課題山積である。

今回の事業の顕著な効果について、「地域ケアネットワーク事業への参加実績」を挙げることができる。

平成23年度から始まった第4次三鷹市基本計画では、「都市再生」と「コミュニティ創生」という2つの最重点プロジェクトが掲げられている。このうち、「コミュニティ創生」については、「みたか・みんなの広場」の活動趣旨と目指す目的が同じであるため、三鷹市とも情報連携を図りながら活動を行ってきた。なかでも、コミュニティ創生プロジェクトの具体的事業である地域ケアネットワークは、住民同士の「支え合い」による新たな「共助」の仕組みであり、平成25年までに市内7住区に設置することが予定されている。平成24年度は、ちょうど「みたか・みんなの広場」がある連雀地区の地域ケアネットワークの立ち上げ準備の年であり、当協議会からも準備委員会の委員を派遣し、設立に協力させていただいた。

今後一年をかけて実行計画を策定し、実施に移すことになっているが、当協議会は実行委員会にも参加させていただくことができ、今後実行計画策定にあたっては、これまでのみたか・みんなの広場の経験を生かすことで、実行委員会に寄与していきたい。また、実行段階にいたっては、当協議会としてできることがあればぜひ協力させていただく所存である。

また、その他の効果としてこれまで書いてきた点以外で気が付いたところをあげておく。

・拠点が定まっていることにより、地域に対して、NPOの活動が認知されやすくなった。
・カフェ形式にすることにより、地域の人たちに対して敷居が低く、開かれた場所となった。
・新しい参加団体が5団体もあった。地域の人にとっての地域参加の入り口としての機能を果たすとともに、同じ悩みを持ち、つながりを求める人たちにとっての居場所としての役割を担うことができた。
・広場の利用がきっかけとなり、各NPOの活動への参加のきっかけとなった。（お弁当を食べたことがきっかけで「あずましの輪」に訪問した例）
・広場での活動がきっかけとなり、市内に子育て世代の居場所づくりの活動が新たに始まった。（三鷹台団地ブックカフェ）
・参加団体同士の連携事業が活発になった。（チームさくらと HumanLoop、ブックカフェと子育てコンビニ等々）

6. 事業実施上の課題

コミュニティカフェ事業の実施あるいは継続にあたっての最大の課題は、お金と場所、そして人材である。今回は、助成金の助けでふたつの問題を同時に解決することが可能であったが、継続のためのはやはり同じ壁にぶち当たる。

(1)場所の問題

まず、事業を運営するには場所が欠くべからざるものである。現在、全国的にコミュニティカフェの推進運動が行われており、他の地域の実例も数件見分しているが、当地三鷹での最大の難点は「家賃が高いこと」である。地方では、2階建て駐車場付で月2万円という例もあるそうである。今回の事業のスタートでも場所探しから始まったが、地方の例は当地では考えられないことである。

これまで実施してきたカフェ事業の営業収支では、家賃どころの話ではない。池袋のみんなの縁側の場合も、最終的には持ち出しになっている。市民活動を持ち出しで行うことは継続が不可能であることと同義である。

そこで、来年度のために場所を探す場合にあたっては、「家賃を払うことはできない。」という前提で探すことにした。家賃なしの具体的な形とは、①行政に場所の提供をお願いすること、②民間の方に無償で場所の提供をお願いすること、この二点である。

こんな虫のいい話であるにも関わらず、行政も前向きに相談に乗っていただけたし、最終的に民間の方のご厚意に甘えることができた。

しかし、今後の超高齢化社会のなかで、社会システムとして「市民の場」を運営することは、やはり行政の協力を仰ぐことが本筋であると考えている。

三鷹市でも、現在当地域での地域ケアネット事業の立ち上げ中であることから、ケアネット事業の一環としてコミュニティカフェとして位置づけることも可能だであると考えているので、実行委員会の席上でも、その点を述べていくことにしたいと考えていいる。

(2)資金の問題

資金が、家賃と人件費をカバーするために必要である。資金を確保するために収益事業を行うことになるが、コミュニティカフェの場合、例えば、300円の飲み物が一日20杯、25日営業したとして、月間売上で15万円となり、粗利はその30～40%として5万円程度の収益となる。この収益では家賃と人件費はとてもカバーできない。

売上をあげるために、今回取り組んだことは、軽食の導入、弁当のテスト販売、クッキー等の販売であるが、いずれも売り上げを大幅に改善するには至らなかった。

新たな収益源を求める方法もあるが、市民活動として活動をしている場合は、活動団体として新たな収益を得るための余力はないのが普通である。

したがって、コミィニテイカフェを自力で運営することは難しい、ということがシミュレーションとしても経験としても出てくる結果である。

ただ、このような当然の考え方では、コミュニティカフェは立ちいかない。やはり、収益源として、市民活動として可能な事業を構築しなければならない。今後は、この課題を念頭に置いて、コミュニティカフェの自力営業というテーマを考えたい。

(3) 人材の問題

コミュニティカフェを動かすには、カフェでの人材、経理等事務の人材さらに上記のように新しい事業を開拓する人材が必要である。市民にはいろいろな方がいらっしゃるので、幅広く人材を求めて、発掘をしなければならない。人材がいて、場所と資金がはじめて効果的に動かせるのである。

7. モデルとしての他のNPO-行政等に紹介する仕組み

モデル事業としての役割は、

①活動を継続すること

②活動メンバーを増やすこと

③身近にあるあらゆる機会に、話をさせていただくこと

等であろうか。仕組みづくりという観点で言えば、賛同者によるネットワークづくりという言葉になるが、それを日常の活動のなかで行うということであろう。

本来「公共」の問題は行政がなすべき仕事であって、行政の手に余るからと言って市民にそれを求めるのは、所詮無理なことであると思っている。ただ、行政として、市民の力を活用する、という視点を持っていただければ、市民の側から行政に一方的な要求をすることはなく、問題の解決に近づくことができるはずであり、協働のあるべき姿である。

「モデルとして」当協議会として可能なことは、3月に川崎市の例であったように、いろいろな機会をとらえて活動内容を紹介させていただくことであろうと考えている。コミュニティカフェというのは各地域でニーズが異なるので、そのまま実施するというわけにはいかないが、あくまで参考事例として見ていただくならば、お役に立てるのではないかと考えている。

8. 平成25年度以降の予定

来年度からの活動拠点については、前述した。さらに、助成金がなくなることにより、新しい体制を構築する必要がある。

①構成団体の見直し

まず、必要なことは活動資金の捻出である。これまでは助成金があったことで各構成団体は負担なしで活動してきたが、活動資金を得るためには、今後は各構成団体にも負担もお願いしなくてはならない。

また、負担に応じた会員組織に再構成しなければならない。負担を求めることから、これまでの団体で脱退するところがあるかもしれないが、それはやむをえないとした。

(イ)負担額

各団体の収支状況を見ると、負担できる金額はわずかなものである。1万万円から5万円の範囲でと考え、3月の運営委員会では年会費3万円を提案した。協議の結果、年会費2万円とすることとなった。

(ロ)各団体の参加意思

市を除く9団体のうち、七団体が正会員としての参加、二団体が賛助会員としての参加を

表明していただいた。最終的には、今回の事業の構成団体がなんらかの形で今後も協力しながら活動を続けることになった。一団体たりとも「退会」の意志を表明することがなかったことは、本当に素晴らしいことである。

②メンバーの参加意思確認

これまで、メンバーによって各業務を担当していただいたが、これも見直しをしなければならない。これまでとは違って、当面は報酬を準備することも不可能であるので、数か月は無報酬で、ということでお願いした。

その結果、一応7名の方が参加を表明してくれている。しかし、7名ではこれまで実施してきたいろいろな業務を順調に行うには不足である。したがって、25日に予定されている拡大運営委員会で、現在のメンバーの方に再度今後の参加を呼び掛けるとともに、会員の募集について提案することを考えている。

現段階では、ようやく新体制の構築に着手したばかりで、運営の具体的な点まで言及するに至っていない。しかし、新しい拠点は駅に近いこともあり、メニュー等も再検討して積極的な展開を図っていきたいと考えている。

今後の一年間が、みたか・みんなの広場にとっての正念場である。来年の今頃、活動を続けてきてよかった、とメンバー全員が言えることが願望である。

（了）